

国際開発コンサルタントの役割と印象に残ったキーワード

1. 国際開発コンサルタントの役割

国際開発コンサルタントは、省庁や JICA など、国際協力を企画・立案する組織から要請を受け、高度な技術力と専門性を持って実際に現地に赴き国際協力を行う仕事である。具体的には、貧困地域や紛争により疲弊した地域などにおいて、貧困からの脱却や平和構築を目指し活動している。国際開発コンサルタントと省庁や他の職業との一番の違いは、他の組織が国際協力の運営管理の仕事を中心としているのに対し、国際開発コンサルタントは現地に赴いて調査や具体的な作業をし、国際協力を実現することを主な仕事としている点である。その活動内容は多岐に渡り、専門性を活かして農業基盤を整え経済を活性化させたり、交通インフラを整備したりするのはもちろん、コミュニティ機能を再生させたり、医療を整えたりするなど、現地の人々の生活を根本から支える役割を担っている。そうした国際協力を通して、世界的な貧困解消や平和構築に寄与するのはもちろん、それが相手国の保有する資源や潜在的市場の確保に繋がるなど、我が国の国益にも寄与しているのである。

2. 印象に残ったキーワード

今回の授業を通して、私は「縁と運」という言葉が一番印象に残った。岩本さんは、今回の講義の中で「縁と運」を大切にすべきだ、とお話なさった。岩本さん自身も、恩師との出会いが人生の道標となり、また開発コンサルタントという仕事に携わるようになったのも、もともと志していたというよりは、「縁と運」によるものだったという。そして岩本さんは、その縁と運に感謝し、国際協力をする事で恩返しをしている。

私は現在、自分がなにに興味を持っているかは若干見えてきたものの、将来的になにをしたいのか、どうやって生きていきたいのかは、まだ模索段階である。今回の講義を通して、今後そうしたことを考えていくにあたり、様々な「縁と運」を大切にしていくことが大切であると痛感した。たとえば、私は今回の講義を受けるまで、国際開発コンサルタントという職業を知らなかったが、お話を聞き、この仕事に非常に興味を抱いた。これも国際農業工学という授業を履修し、岩本さんのお話を聞く「機会」を得る、という「縁」があっただけのことである。前回の講義のテーマである建設コンサルタントにしても、私は講義を受けるまで全然知らなかったし、講義を受けて初めて興味を抱いた。農業工学の知識に関する講義のみならず、こうして農業工学がどのような形で実際的に活かされているのか、現場の最前線にいる方々から直接お話を聞くことができるという「機会」を与えてくれる溝口先生を始め、様々な形で新しい見方を提示してくれ、視野を広げてくれる教授たち、また同じ時間を共有し、お互いバカをしたり刺激しあったりすることができる同期たち、さらにはこれまで関わってきた人、これから関わっていく人ひとりひとりの出会いに感謝し、その「縁」を大切にしていきたいと強く感じた。また、今までは出会う人々にさまざまなものを与えられる一方であったが、今後は自分が彼・彼女らにどのような形で恩返しすることができるのか考え、その中で将来的になにをしたいか模索していきたいと思った。

参考資料：授業で配布されたプリント